

① ディレクトフォース

私は新日鐵住金に行った。この会社の名前を初めて聞いたとき、鉄や金という字から製鉄関係の会社であること、住という字から住友が関連している会社であることくらいしかわからなかった。下調べとしてホームページを見てみると、「総合力世界No.1の鉄鋼メーカーに向けて」と書いてあった。私は世界でトップに立とうとしている会社の本社に入り、お話を聞くことができることにとてもワクワクした。

当日、本社ビルの中には、冷氣とともに緊迫した空気が漂っていた。一流企業ならではの駅の改札のような入口や広い受付など、実際中に入って見て、やっぱり大きな会社は違うなと思った。広い部屋に通されて話が始まった。まずメーカーとは何かから始まり、会社説明、そして、グループに分かれて、社員の方と交流するという順で進んでいった。そのなかの一番最後、社員の方との交流の中で、社員の一人に言われたことが特に印象に残っている。グループの中の一人が質問した「勉強と部活の両立が物理的に難しいのだが、どうすれば良いか」という問いに対して、その人は「1日は24時間ある。寝る時間の6時間を抜いても18時間あるんだよ。無理だと思うからできなくなる。物理的に不可能なことなんてないという気持ちで日常生活を振り返ってごらん。通学の際に利用するバスや電車の中で自分は何をしているか。お風呂に入っている時なんかはどうだろうか。そうして振り返った時に必ず無駄にしている時間があるはずだ。そんな時間を勉強や、ちょっとした運動やストレッチに当てれば両立できると思うよ。」と言って下さった。ディレクトフォースが終わった後、改めて自分の日常生活を振り返ってみた。すると、自分の思っているよりも無駄にしている時間が多かった。もういちど高校生活を振り返る良い機会になった。

② 企業大学訪問

私たちの班は東京大学宇宙線研究所の特任助教、中嶋大輔先生を訪ねた。秋葉原からつくばエクスプレスで30分、場所は千葉県柏市である。中嶋先生はチェレンコフ宇宙ガンマ線グループの一員で、現在CTA計画を進めている。CTA計画をすごく簡単に言えば、「ものすごく大きなガンマ線望遠鏡というものを作ろう」という計画だ。そんな壮大な計画を進めている中嶋先生に実際会ってみての第一印象は、とても優しそうだった。部屋に案内されて、早速質問が始まった。私たちが将来CTA計画に携わることはできるのか、先生のようにするには高校生のうちに何をすればよいか、宇宙人はいると思うかなどなど…。そのあと、CTA計画の部品模型などを見せてもらった。そして、最もすごいなと思ったのは、CTA計画に使用される本物の鏡である。普通の鏡よりもゆがみや凹凸が少ないらしい。確かにその鏡は家のよりもよく光を反射しているように見えた。現在進められているCTA計画が本当に壮大なものであることが実感できた。



③ OBOGによる懇談会

我々のために東京大学を中心とする首都圏の一流大学に進学された仙台二高のOBOGの皆さんが13人も来て下さった。講話をいただいたのは時間の都合上文系の方2人と理系の方1人の3人だけだったが、とても貴重なお話を聞くことができた。最初の方からは東京大学とはどんなところなのか、東大生活についてお話をいただいた。休み時間中に移動するのが大変だとか、どこの料理はおいしいとか、一人暮らしは寂しくないのかなどなど。とても面白く説明して下さいました。また、2人目の方からは東京大学の学習や学部についてお話をいただいた。具体的に何を学習しているのか。じぶんのやりたいことはどの学部でできるか、学部によって雰囲気などの

ように違うかなどだ。東大のそれぞれの学部によって違うところなどを知ることができた。3人目の方はたまたま理系の方だった。私は文理選択で理系を選んだが、数学が大の苦手だ。自分でもどうすれば良いかわからなかった。そこで、3人目の方に聞いてみた。すると、思いもよらない回答が帰ってきた。これは前の2人の方も同じようなことをおっしゃっていた。皆さん決まって「数学が苦手ならやらなくていいよ。だって、嫌いなこと勉強するのいやじゃん。それよりも、得意な教科をとことん伸ばした方がいいよ。」と言って下さった。また、こんなこともおっしゃっていた。「数学が0点でも東大受かるよ。東大の合格ラインが平均50点だから、他でカバーすれば大丈夫。現に、友達は数学10点で東大受かったから。」と。なるほどな、やっぱり東大生の考えることは違うなと思った。今までは苦手な数学ばかりを気にして、家庭学習に偏りがあった。これからは数学だけでなく、得意教科を含めていろいろな科目を勉強したいと思った。

④ 東京大学見学会

東京大学の赤門から中に入ってみると、まるでそこはテーマパークみたいだった。東京のど真ん中にレンガ造りの建物が立ち並び、赤門とは別の正門からまっすぐ伸びる美しい並木道があり、千葉の某テーマパークでは開かないようなドアが開き、中に研究室がある、ほかとは違う世界だった。東北大学とは比べ物にならないほどの歴史があり、またそれが守られている。外見は古いが、中で研究していることは最先端である。私は理学部の生物学科を見学したいと考えていた。8時半くらいにグループの人たちと一番乗りで並んだ。9時20分くらいに開場した。受付が済んでから案内を見てみると生物学科は午後からということだった。午前中は暇だったので、隣の理学部化学科を見ることにした。ツアーのようになっていて、4つの研究室を見ることができた。どの研究室も日本で最先端で、SF映画に出てきそうな内容のものもあった。

午後になってから、生物学科に行ってみた。中はボードがいくつかあって、それぞれに学生さんがついて説明をしていた。空いているところがなかったので、置いてあった学部案内を見ていると、女子の学生さんが、良かったら据わってくださいと声をかけてくれた。そこは質問・相談コーナーだった。だから思い切って相談してみた。「自分は日本の野鳥が好きで、その研究がしたいのだが、ここでできるのか。」と。するとその学生さんは、私にはわからないと言って、他の学生さんに話をしてくれた。その時に、たまたまやってきた一人の先生が私に声をかけてくれた。その人とは、東京大学大学院理学系研究科教授の寺島一郎先生だった。植物がご専門なのだが、日本野鳥の会東京に入っているらしい。

先生がおっしゃるには、「自分のやりたいことを専門にしている先生について行くと良いよ」と言って、何人か先生を紹介してくれた。「もし東大で野鳥について学ぶなら、ここじゃなくて、農学部のフィールド研究支援担当の准教授、石田健先生を訪ねると良い。最近まで東大にいた樋口広芳先生は、今慶応大学の理工学部にいる。あと、信州大学に中村浩志先生がいるし、立教大学には、上田恵介先生がいる。あとは、東京大学総合研究博物館でカラスの研究を行っている松原始先生とか、九州大学の理学部生物学科の江口和洋先生とか、京都大学で動物発生学をやっている高橋淑子先生がいるかな。」と様々な方を教えていただいた。

本を読んだことがあって知っている先生もいれば、全く知らない先生もいた。また、仙台から来たことを伝え、東北大学に進んで、大学院から今おっしゃってくれたような先生のところに行きたいと言うと、「だったら、生物多様性進化分野の河田雅圭(かわだまさかど)先生や水圏の占部城太郎(うらべようたろう)先生なんかどうだろうか。」と進めてくれた。そして、研究の話になった時に「まずは、情報収集だな。来年の3月辺りに仙台国際センターで生態学会があるから覗いてみたら。」と言ってくれた。また最後に、「鳥類の生態学っていうのはマニアックな研究が多い。その分研究者は同じような研究を繰り返すことが多くなりがちだ。そうすると学問が進歩しない。もし君が鳥の道に進むのならば、進歩している先生を選ぶと良い。」と言ってくれた。2人の学生さんは、ネットで先生のホームページを開いてくれたり、メモを取って渡してくれたりした。みんな私にとっても親切だった。今回、寺島先生のお話を聞くことができ本当に良かったと思う。野鳥研究の世界への視野が広がったし、自分がこれからどうしていくべきかが何となくが固まってきた。寺島先生に心から感謝している。